

春日井革新懇ニュース 2011年5月8日

NO.212

革新統一春日井懇談会(春日井革新懇)

春日井市上条町 7-133-25 電話 82-3546

「沖縄のいま 憲法のいま」 憲法施行64周年記念市民のつどい」



5月3日・憲法記念日、名古屋市公会堂で愛知憲法会議主催の「憲法施行64周年記念市民のつどい」が開かれました。

インドから参加されたジョン・デバラさんは、「インドでは、1億3400万人の子どもたちが児童労働を強いられています。子どもたちは、戦争の最初の犠牲者です。銃ではなく、ペンこそ必要です。飢えとホームレスの問題を解決するためにも、憲法9条がカギになります。ガンジーの非暴力の主張は、諸問題を解決します。憲法9条がファイナルアンサーになると深く確信しています。」と発言されました。

元海兵隊員で沖縄国際大学の非常勤講師のダグラス・ラミスさんが「沖縄のいま、憲法のいま」と題して講演。

ラミスさんは「憲法9条を世界遺産にしたい」という人が「米軍がいた方が安全」と話したことに矛盾を感じていなかったという体験を紹介。沖縄の人々は、米軍基地も日米安保条約もいらないと言っています。沖縄以外の日本に住む人々が米軍基地は必要だと言い、安保条約は必要だと言っています。米軍基地の問題は、沖縄以外の日本に住む人々の問題なのに、領土が0.6%しかない沖縄に75%の基地が押しつけられています。県外移設の問題で、沖縄以外の大和・本土の基地反対の声が尊重され、沖縄の基地反対の声は無視されていると不平等性を本土にすむ人々に問いかけました。日米安保条約があるから基地があるとして、

憲法9条と日米安保条約の矛盾を解消する積極的な運動を呼びかけられました。閉会の挨拶で愛知憲法会議事務局長の本秀紀・名古屋大学教授は、震災後の憲法運動の焦点を説明されました。「憲法にのっとつた暮らしやすい地域づくり」を自分の問題として実践することが「本日のテーマにもつながるように思う」と述べ、また政府内に「災害復興名目の改憲論も浮上している」として警戒を呼びかけました。参加者は、会場いっぱいの2000人でした。

憲法九条 平和のつどい

講演「戦争を人間の目で見ると
憲法九条を守り抜く」

講師 品川 正治さん

社団法人国際開発センター会長
9条世界会議呼びかけ

○ 5月29日(日) 13. 20

○ 春日井市東部市民センター

参加費 500円

・主催 春日井9条の会 電話 85-4877

春日井革新懇 憲法署名行動 毎金曜 16. 00~17. 00

- ・5/13 パロー東神明店前
- ・5/20 ピアゴ気噴店前
- ・5/27 ナフコ石尾台店前
- ・6/3 清水屋春日井店前
- ・6/10 カーマ東野店前
- ・6/17 パロー春日井西店前
- ・6/24 生鮮館勝川店前
- ・7/1 ナフコ六軒屋店前

